

お茶の水女子大学の留学体験

復旦大学 李越

2017年10月、私は東京に来て、交換留学生としてお茶の水女子大学に入学しました。皆のおかげで、私はなんと一年無事に、そして充実した留学生活を送ることができました。

校に来る前に、自分の原因で、私は規定の時間より2日遅れて到着しました。そのまえに、国際教育センターの先生と国際課の担当の方とメールで何回も連絡をしましたが、とても熱心で、いつも手間を惜しまなくて丁寧で返信してくださいました。その真剣さに、感心しました。まだお茶の水女子大学に着いていませんが、先に学校の温かみを感じる事ができました。

学校から送っていただいた資料はとても詳しくて、大学の案内、履修科目、それに日本での生活注意事項まで、いずれも丁寧に紹介してくださいました。例えば、空港から宿舎までのアクセス方法は何種類も明記しましたが、それだけではなく、必要な費用、乗り換えの注意事項、荷物の宅配方法など、更に電車駅から宿舎までの歩き方さえも地図ではっきり説明していただきました。その学校から説明資料を持って、私はとても順調に宿舎を見つけることができました。本当に助かりました。



お茶の水女子大学国際学生宿舎は大山駅の近くに位置して、とても生活しやすいところです。駅から宿舎までは、レストラン、スーパーマーケット、コンビニ、喫茶店、惣菜屋、花屋、本屋、百円ショップ、薬局、何でもそろっています。私は午後3時頃宿舎に到着しましたが、寮母さんはすぐ私に宿舎については詳しく紹介して、その後に、ボランティアの方の案内で、買い物をしに行ってきました。宿舎の条件はとても良くて、明るくて清潔感がある部屋でとても快適です。それで皆のお陰で、三時間もかからず、一切の手続きも、部屋の片付けも、生活用品の買いそろいも、更に夕食さえ全部できて、私は落ち着いて留学生活を始めました。

寮生活について最も印象的なことは、宿舎の学生自治会です。自治会の会員はすべて寮生で、年に二回自治会大会が開かれます。

大会では、費用の支出内容を公開して、また、宿舎の施設増減、自治会の管理などについて、討論を行います。一階のロビーと浴室を除いて、各階の公共区域の掃除は全部で自治会の手配で寮生自分でやっています。各捕食室の前には、はっきりした当番表を貼ってあ

り、当番生は皆で協力しながら真面目でやるべきことをやっています。本当に日本人学生の自治意識、団体意識、自己管理能力に感心しました。

以上は生活面の体験ですが、お茶の水女子大学の講堂に入ってみると、私はいっそう「女子の東大」と呼ばれるお茶の水女子大学の研究の伝統と質素な学風、「学ぶ意欲のある全ての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」との標語を深く感じる事ができました。お茶大には濃厚な学習と研究の雰囲気があり、知識を求める好学心を持つ学生と、学術の中心として豊かな教養、優れた学問と研究能力と教育に強い関心をもった教員の存在もまたその雰囲気の一部でした。



私の指導教官の岸本先生は中国の明清史の研究領域でとても有名な研究者です。後期の指導教官の神田先生が若いですが、素晴らしい指導力をお持ちだと、とても実感しました。研究分野はちょっと違っていますが、日本の戦後史を専攻にする私をサポートしてくださり、日本史分野の先生を紹介してくださったほか、励まし導いてくださいました。研究に関して先生方から頂いたアドバイスと貴重な指導は適切で大変参考になり、お陰で私の研究もいちおうまとまりました。

そして、国際教育センターの日本文化教室は気軽に伝統文化を体験できる講座を開催してくださいました。季節のお花を使って自由に生け花を楽しむ小原流いけばな体験、わかりやすく解説していただき、本物の能面と能装束を実際に着る事ができる能楽体験など、様々な講座を通して、私は日本の伝統・文化の魅力を実際に肌で

感じました。

一年の留学生活は一瞬の間に過ぎました。短かい期間ですが、私はいろいろなことを学んだと思います。先生方の広い学識と真剣な学術態度、学生達の厳格な学風と自治精神、職員達の倦まずたゆまず仕事している姿に敬服します。お茶の水女子大学の留学経験は私の一生の宝物になります。私はお茶の水女子大学の一員として勉強していることを誇りに思っています。